

# 医療費分析からみた疾病・医療費統計の概要 (平成25年9月から平成26年2月診療分より)

H27.7.24  
地域保健計画推進部会資料  
データ元: 東村山市健康福祉部  
保険年金課

## 1. 健康課題・疾病別医療費統計の現状(要旨)

- (1)「循環器系疾患」はレセプト件数及び医療費総計のいずれも第1位であり、年齢層別では、30歳代後半で医療費総計及び一人当たり医療費は上位4位に上昇している。50歳後半以降、医療費・レセプト件数は上位で固定化している。
- (2)循環器疾患のなかで、高血圧性疾患は患者数及び医療費総計のいずれも第1位である。
- (3)「内分泌、栄養及び代謝疾患」はレセプト件数第2位、医療費総計第4位である。
- (4)「内分泌、栄養及び代謝疾患」のなかで、糖尿病は医療費総計で第4位、患者数第7位である。
- (5)大分類「精神及び行動の障害」は、一人当たり医療費が最も高く、25歳から54歳の年代で第1位である。

表1 大分類における疾病統計

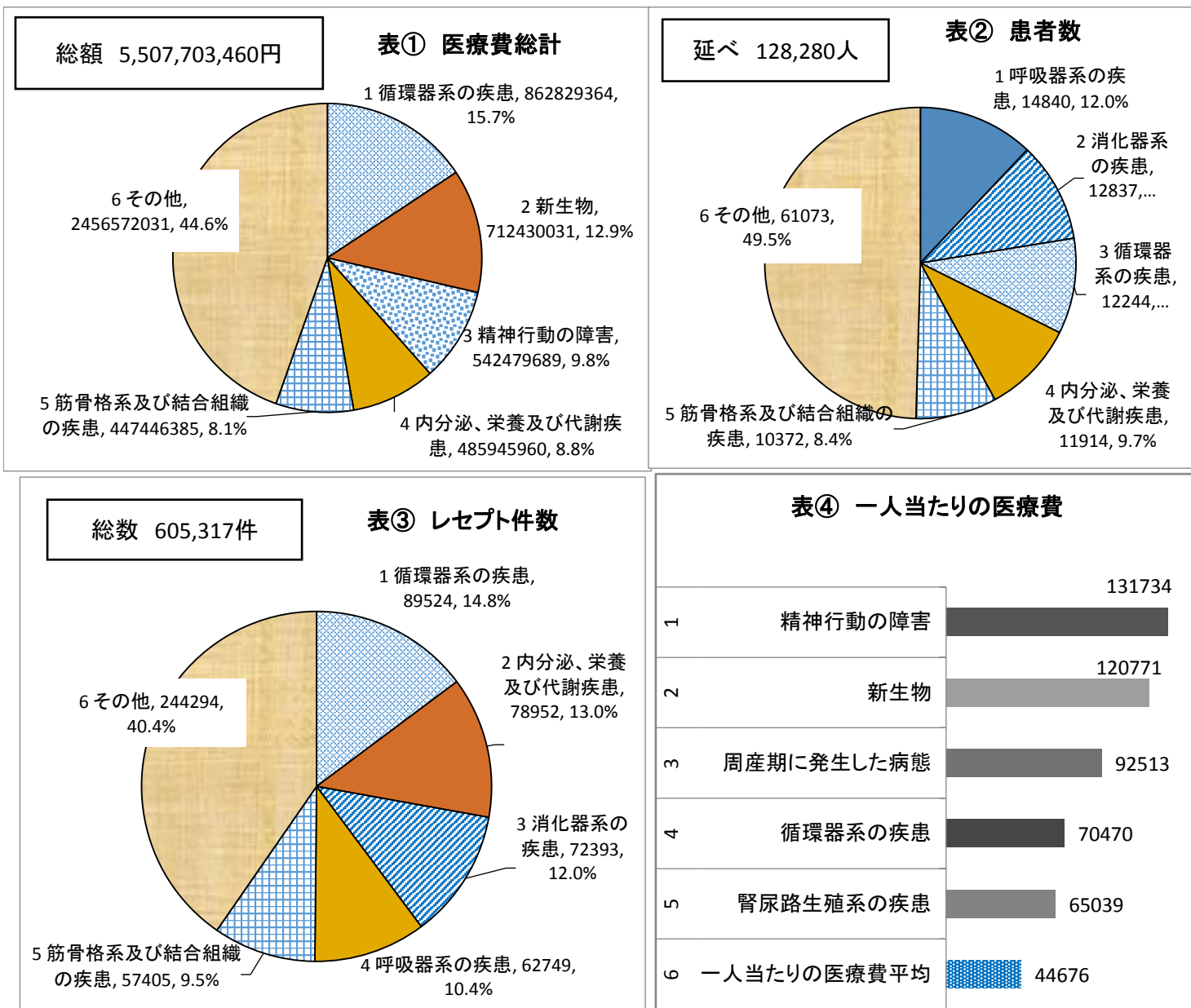


表2 中分類からみた疾病別統計

医療費総計上位	構成比 (%)	患者1人当たりの医療費上位	患者数(延べ)上位	構成比 (%)
<b>1.高血圧性疾患</b>	6	<b>1.腎不全</b>	<b>1.高血圧性疾患</b>	4.7
2.統合失調症	4.9	2.白血病	2.内分泌、栄養・代謝疾患	4.5
3.その他の悪性新生物	4.4	3.脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	3その他の消化器疾患	3.6
<b>4.糖尿病</b>	4.4	4.大腸がん	4.急性上気道	3.5
5.その他の内分泌、栄養、代謝疾患	4	5.統合失調	5.アレルギー性鼻炎	3.4
<b>6.腎不全</b>	3.9	6.脳内出血	6.症状、徴候及び異常所見で他に分類されないもの	3.3
7.その他の消化器系の疾患	3.5	7.悪性リンパ腫	<b>7.糖尿病</b>	3.2
8.その他の神経系の疾患	3.1	8.気管、気管支及び肺の悪性新生物	8.屈折及び調節の障害	3.2
9.その他の心疾患	3	9.先天奇形、変形及び染色体異常	9.胃炎及び十二指腸炎	3.1
10.気分障害、躁うつ病	2.7	10.乳房の悪性新生物	10その他の眼及び付属器の疾患	3

(6)腎不全は患者1人当たりの医療費が最も高い疾病第1位であり、医療費総計では第6位である。

▲透析患者一人当たりの6か月の医療費平均は304万円程度であった。

(7)対象レセプト期間で透析患者は94人であった。透析患者のうち生活習慣病を起因とする疾病は、63.8%(60人)であり、うち90.6%(58人)が糖尿病性腎症であった。

▲生活習慣起因の腎症に至り、透析患者になったと考えられる患者が多く、深刻な状況である。

(8)糖尿病及び腎症と思われる患者数は2,798人存在し、そのうち指導可能な対象者数は488人であった。

▲腎不全及び合併症として腎症を引き起こす糖尿病は、人口透析に至る可能性が高い疾病である。

表3 透析患者の実態

透析療法の種類	患者数(人)
血液透析のみ	91
腹膜透析のみ	2
血液透析及び腹膜透析	1
透析患者合計	94

表4 糖尿病及び腎症患者の全体像

病期	臨床的特徴	治療内容
V 透析療養期	透析療法中。	透析療養、腎移植。
IV 腎不全期	蛋白尿。血清Crが上昇し、腎機能は著明低下する。尿毒症等の自覚症状あり。	食事療法(低蛋白食)、透析療法導入、厳格な降圧治療。
III 顕性腎症期	蛋白尿。腎機能は高度に低下。尿毒症等の自覚症状あり。	厳格な血糖コントロール、食事療法(低蛋白食)、厳格な降圧治療。
II 早期腎症期	微量アルブミン尿、血清Crが正常、時に高値。※尿蛋白、血清Cr共に正常だが糖尿病と診断されて10年以上の場合を含む。	血糖コントロール、降圧治療。
I 腎症前期	尿蛋白は正常。血清Crが正常、時に高値。	血糖コントロール。

透析療養期(V)  
腎不全期(IV)  
顕性腎症期(III)  
早期腎症期(II)  
腎症前期(I)

糖尿病及び腎症患者 合計 2,798人

(9)大分類「筋骨格系及び結合組織の疾患」による患者数及び医療費総計は上位5位であり、女性の医療費は年齢が上がるにつれて高い。特にロコモの原因疾患の罹患率は、女性ではほぼすべての年齢で男性を大きく上回っている。60歳を過ぎると男女とも罹患割合・医療費とも増大している。

表5 ロコモティブシンドローム原因疾患罹患状況(40歳以上)

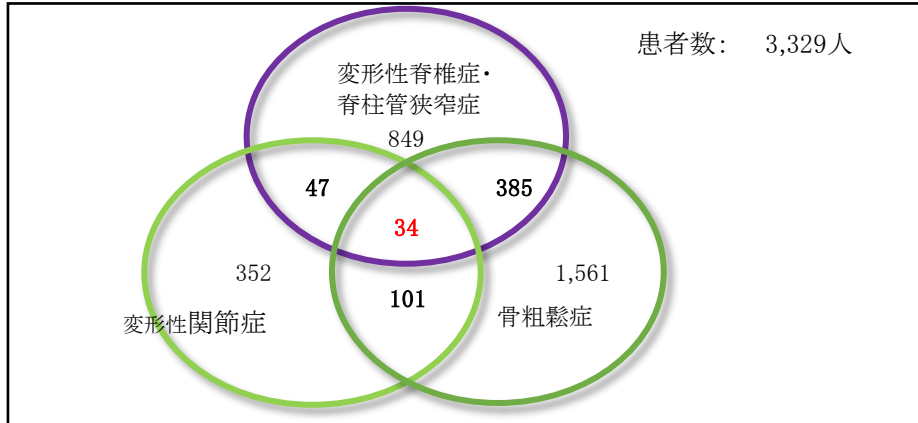


表6 ロコモ関連傷病の患者数(人)

	97%	97%	98%	98%	99%	99%	100%	100%
(参考)保険者全体	28968		58					
合計	患者数 00,3329		患者数 0骨折,26					
3疾病併存患者	34		0					
骨粗鬆症および変形性脊椎症又は脊柱管狭窄症	385		8					
変形性関節症および骨粗鬆症	101		1					
変形性脊椎症又は脊柱管狭窄症および変形性関節症	47		0					
2疾病併存患者合計	533		9					
骨粗鬆症	1561		11					
変形性関節症	352		2					
変形性脊椎症又は脊柱管狭窄症	849		4					
1疾病患者合計	2762		17					

■患者数00 ■患者数0骨折 ■患者数0サルコペニア

## 2. 多受診者受診の傾向

重複受診者、頻回受診者、重複服薬者が多数存在する。

表7 多受診者の状況

(単位:人)

受診行動	延べ数	実数	月平均延べ数	上位疾病及び薬品名
○重複受診者	177	147	30	1.不眠 2.高血圧 3.気管支喘息 4.アレルギー性鼻炎 5.糖尿病
○頻回受診者	761	308	127	1.高血圧 2.統合失調症 3.アレルギー性鼻炎 4.変形性膝関節症 5.腰部脊柱管狭窄症
○重複服薬	637	637	178	1.デパス 2.ハルシオン 3.マイスリー 4.レンドルミン 5.ムコスタ

☆重複受診者・・・1か月に同系の疾病を理由に3医療機関以上受診している。  
 ☆頻回受診者・・・1か月に12回以上受診している。  
 ☆重複服薬者・・・1か月間に同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える。

